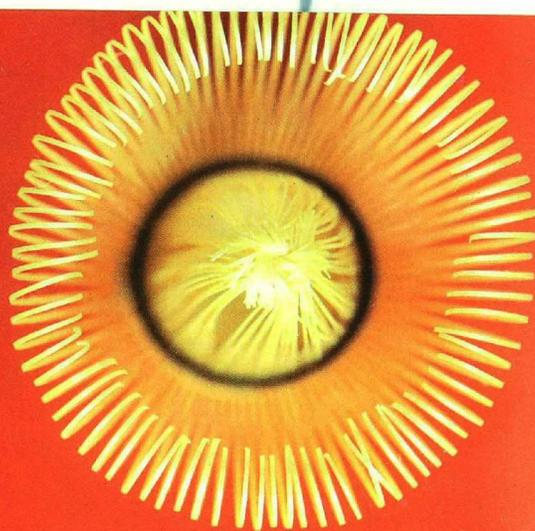
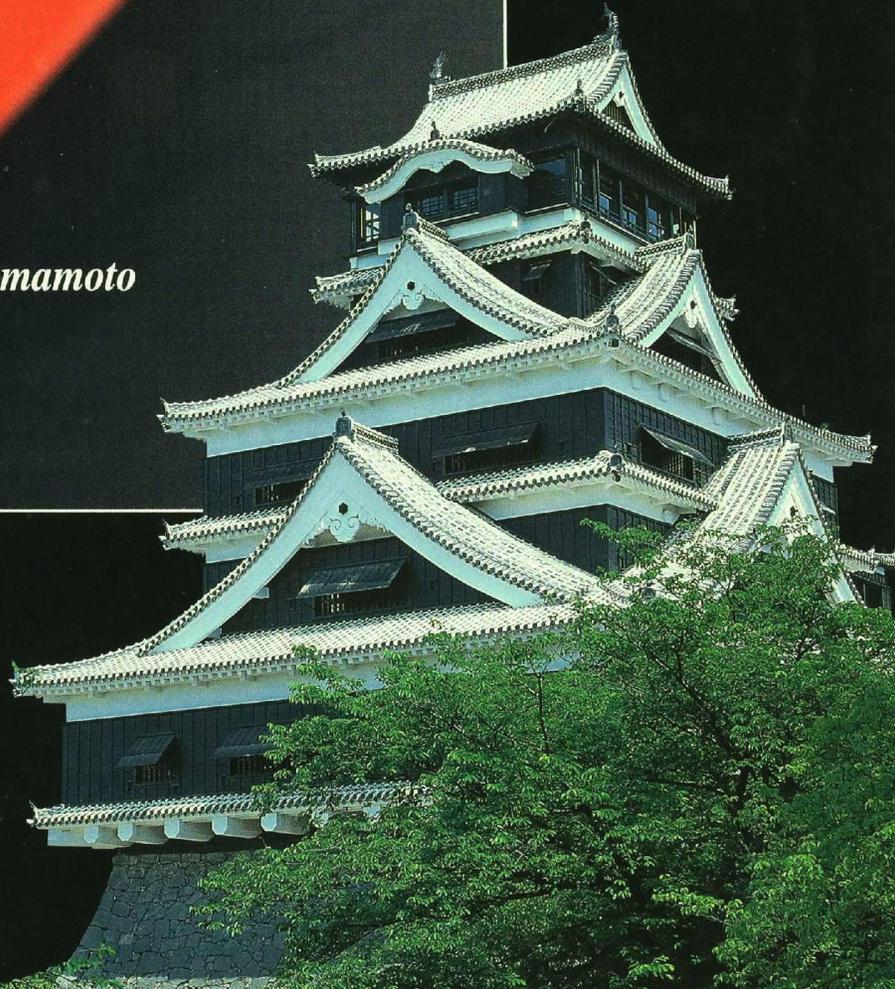


貸出し用



'99 熊本市勢要覧

Happiness Kumamoto





KUMAMOTO CITY '99 市勢要覧

CONTENTS

熊本市(市木・市花・市鳥).....	1	国際交流.....	37
発刊にあたって.....	2	市民参加のまちづくり.....	39
熊本市歌.....	4	◎仕事や活動をおして「生きがいを感じるまちづくり」	
地域と気象.....	5	中小企業.....	41
人口.....	6	魅力ある商店街.....	42
基本構想/水と緑の人間環境都市を目指して.....	8	工業.....	43
〃 /いきいきとした市民福祉都市を目指して.....	8	流通・情報拠点.....	44
〃 /活力あふれる交流拠点都市を目指して.....	9	雇用福祉.....	45
〃 /風格ある文化創造都市を目指して.....	9	観光・コンベンション.....	46
しあわせ実感くまもと		農林水産業.....	49
◎健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」		住宅.....	50
防災.....	12	公園緑地.....	51
消防.....	13	上水道.....	52
交通安全.....	14	下水道.....	53
健康文化.....	15	市電・市バス.....	54
保健医療.....	16	道路・駐車場.....	55
良好な環境づくり.....	18	基幹交通.....	56
緑と水.....	19	市街地開発.....	57
ごみ・し尿処理.....	20	◎美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」	
生活環境.....	22	歴史文化.....	61
◎豊かな人間関係を保つ「心のかようまちづくり」		史跡・文化財.....	62
“人が輝くまち”.....	24	都市景観.....	63
地域福祉.....	25	市民文化.....	64
高齢者福祉.....	26	生活文化.....	65
障害者福祉.....	27	行政.....	66
児童・母子福祉.....	28	市議会.....	68
社会保障.....	29	財政.....	70
社会教育.....	30	広報・広聴.....	71
学校教育.....	31	名誉市民.....	72
学校施設.....	32	熊本市のあゆみ.....	73
青少年の健全育成.....	33	市民のくらし.....	79
創造的な人づくり.....	34	熊本市案内図.....	80
消費者行政.....	35	資料編.....	81
男女共同参画社会.....	36		

写真説明

熊本城

熊本城は、かつて大阪城、名古屋城とともにわが国三名城に数えられた城郭で、慶長12年(1607)加藤清正が7年の歳月をかけて、周囲9km、大天守、小天守、櫓49、櫓門18をもつ複雑かつ壮大な城をつくった。

明治10年(1877)の西南の役に官軍がたてこもり、西郷隆盛の軍に50余日にわたって攻撃され、そのほとんどが焼失し、昭和35年9月現在の天守、小天守が再建された。



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

HAPPINESS KUMAMOTO

市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市鳥 昭和59年5月22日制定

THE SYMBOL TREE

IN KUMAMOTO

●市木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齡が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。



THE SYMBOL FLOWER

IN KUMAMOTO

●市花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるころにある。



THE SYMBOL BIRD

IN KUMAMOTO

●市鳥 シジューカラ(シジューカラ科)

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(写真は、東海大学出版会提供
フィールド図鑑より)



発刊にあたって

21世紀の鼓動が聞こえる中、時代は大きく転換しつつあります。

このような中で、水と緑の豊かな自然に恵まれ、優れた伝統と文化を有する熊本市は今や人口66万人を超え、人口規模においても中核市の中で2番目と、更に発展を続けております。

私は、市政を運営するにあたり「生まれて良かった、住んで良かった」と実感できる熊本市の実現のために、しあわせの4つの条件として、健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」、豊かな人間関係のある「心のかようまちづくり」、仕事や活動をとおして「生きがいを感じるまちづくり」、美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」を基本として各事業を展開してまいりました。

新しい時代の熊本づくりは、都市の利便性や経済効率の追求もさることながら、家庭や地域のふれあい、或いは文化や心のゆとりといった、精神的な豊かさを重視する、そのような街を目指していかなければならないと考えております。

現在、本市では新総合計画の策定を進めておりますが、しあわせの4つの条件を念頭に置きながら、まず、具体的には、総合防災公園の建設に向けた調査、熊本駅周辺地区の整備、中心市街地の活性化や企業誘致を進め、さらには「くまもとお城まつり」を引き続き開催するほか、市民はもとより全国から、御支援を得て熊本城復元整備に着手しました。

このほか、開催を目前に控えた第54回国民体育大会への対応、さらには、市民の皆さんの理解と信頼にこたえ、より透明性の高い市政運営に

資する情報公開制度の確立などにも取り組んでまいりました。

今後は、「人にやさしく、地球にやさしい」を都市政策の基本理念として、市民の皆様が「しあわせを実感できる熊本市」の実現に向けて、全力を傾注してまいります。

この「99市勢要覧」が、未来に向け大きく飛躍する熊本市の現状を御理解いただくための一助となれば幸いに存じます。

平成11年3月

熊本市長 三角保之

HAPPINESS KUMAMOTO
人にやさしく、地球にやさしいまちづくり





熊本市歌

東岡 正治作詞

鳥飼 哲夫作曲

1. 霊峰阿蘇を遙かに望み
水白川の流れに沿いて
天下に名だたる古城の都
われらの都 大熊本市
2. 常盤の緑 いらかを包み
森の都と世に謳われて
文運さかゆる平和の都
われらの都 大熊本市
3. 商工立市の営みしげく
いま新興の光に満ちて
生気ぞあふるる文化の都
われらの都 大熊本市
4. 輝く進取の旗ひるがえし
西日本の最中に立ちて
いざいざ築かお理想の都
われらの都 大熊本市

熊本市民愛市憲章

一品位ある市民の誇りのために

都市宣言

- 「森の都」都市宣言に関する決議
- 地下水保全都市宣言に関する決議

健康都市宣言

平和都市宣言

環境保全都市宣言

地域と気象

REGION & PHENOMENA

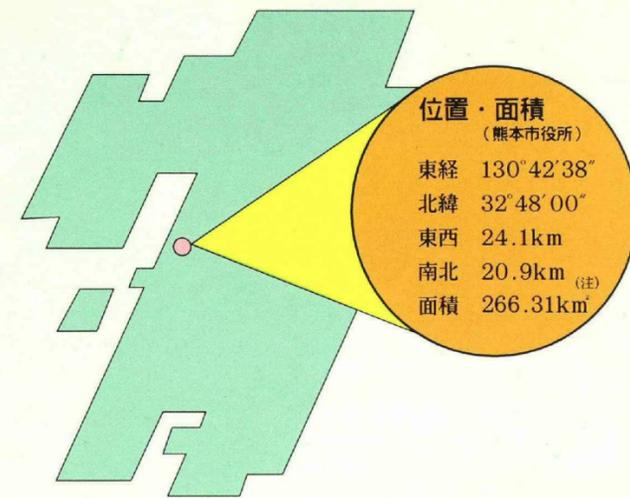
本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する自川の三角洲で形成された低平野からなっています。

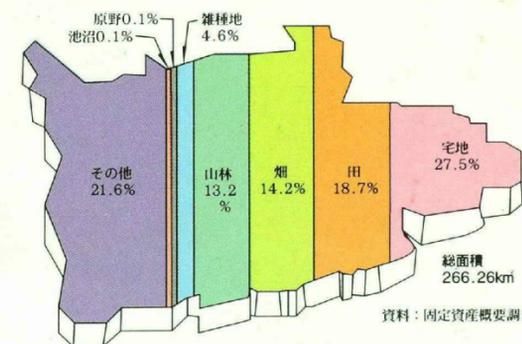
気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きくなり、冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

平成9年でみると、気温は年平均17.0℃で、最高気温は7月の35.1℃、最低気温が1月の-3.5℃となっています。

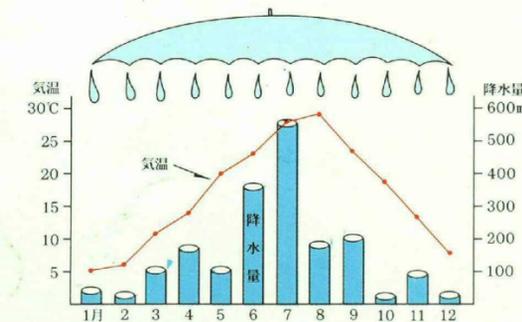
年間降水量は2,395mmと、過去3年の平均より880mm多くなりました。また、風向きは春から夏にかけて南西の風が多く、秋から冬にかけては北北西の風に変わり、風速は1年を通じて2.4mとゆるやかな風となっています。



■地目別土地面積 (平成10年1月1日現在)

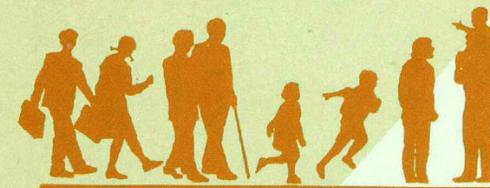


■気温と降水量の月別変化 (平成7年～平成9年平均)



(注) 面積については「平成9年全国都道府県市町村別面積調」建設省国土地理院発行による。

POPULATION



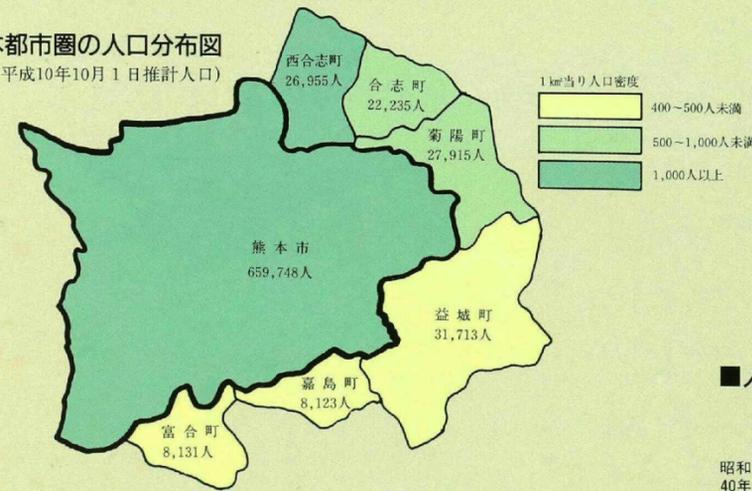
明治22年、市制施行当時42,725人（M.22.12.31現在）であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を越え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人（224,219世帯）となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は平成10年1月1日現在で、2.61人となっています。

また、平成7年と2年の国勢調査を比べると、23,614人、3.8%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

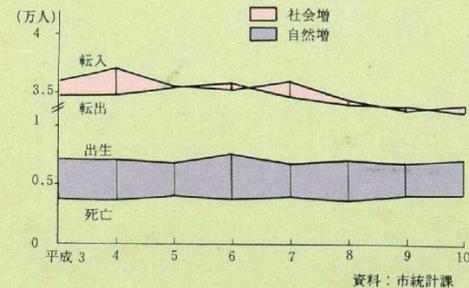
さらに年齢3区分別に構成比をみると、0～14歳の年少人口が17.2%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が13.8%となっており、平成2年より、年少人口の割合が2.1ポイント低下したのに対し、老年人口が2.4ポイント上昇するなど、高齢化がさらに進行しています。

また、人口の地域分布では、平成7年の国勢調査概数結果でみると、およそ東部に19万8千人、北部に12万2千人、中央部に14万3千人、南部に11万1千人、西部に7万5千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

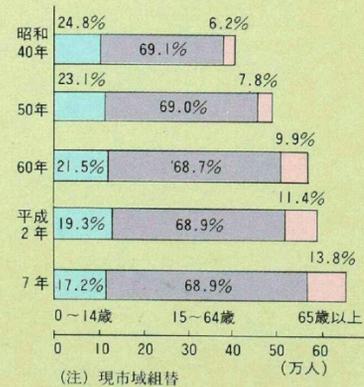
■熊本都市圏の人口分布図 (平成10年10月1日推計人口)



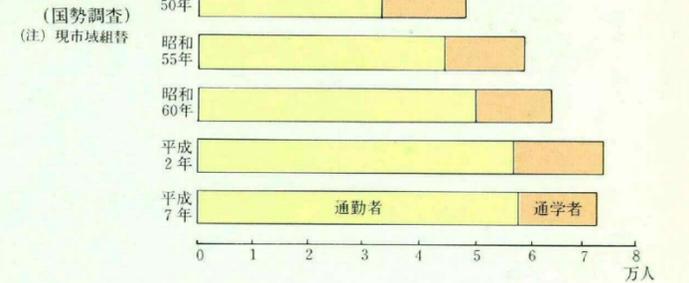
■人口動態の推移



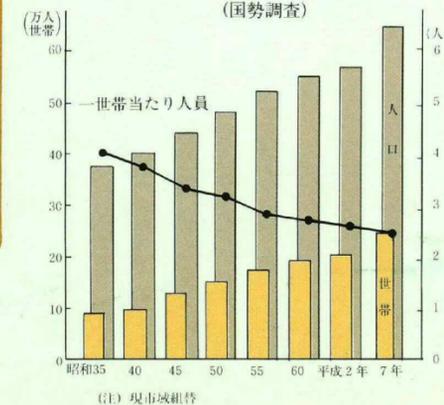
■人口の年齢(3区分)構成推移 (国勢調査)



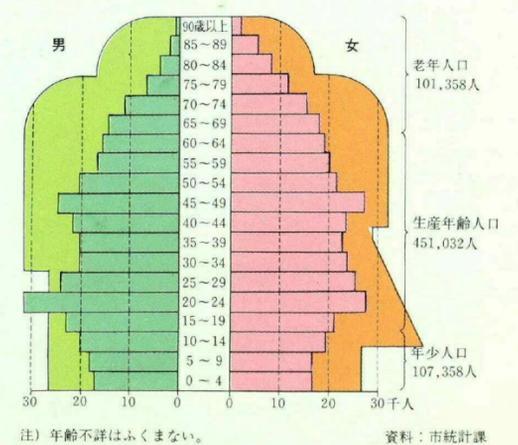
■流入人口の推移



■人口・世帯数の推移 (国勢調査)



■年齢別人口構成 (平成10年10月1日現在)



熊本市基本構想



水と緑の 人間環境都市を目指して

本市は、清れつな地下水や豊かな緑など恵まれた自然環境とそこに息づく生態系循環を大切に、人と自然が共生する都市をつくる。また、市民が安全で快適に過ごせる生活環境を確保し、ゆとりや潤いのある良好な環境の都市を目指す。



いきいきとした 市民福祉都市を目指して

本市は、すべての市民が、お互いの温かいおもいやりの中で、健康で生きがいに満ちた暮らしを営む社会を築く。また、市民一人ひとりが自立し、各人の能力が自由に発揮され、個性と創造性あふれる多彩な人材が育つ都市を目指す。



活力あふれる 交流拠点都市を目指して

本市は、優れた個性を生き、多様な都市機能の集積を回り、世界に開かれた人・物・情報の活発な交流拠点を形成する。また、未来を開く新しい技術や情報を活用し、多様な産業活動が活発に営まれ、国際社会の平和と繁栄にも貢献する都市を目指す。



風格ある 文化創造都市を目指して

本市は、先人が築いた優れた特色ある伝統・風土を市民の誇りとして大切に守り育み、風格ある歴史性豊かな都市を形成する。また、市民の豊かな創造力から多様で幅広い都市文化が生まれ、その新しい文化と伝統が調和した都市を目指す。

全ての市民が幸せであると感じられる都市の実現を目指して

しあわせ実感くまもと

HAPPINESS KUMAMOTO

♡健康を実感できる

安全で健やかなまちづくり

♡豊かな人間関係を保つ

心のかようまちづくり

♡仕事や活動をとおして

生きがいを感じるまちづくり

♡美しいものに感動できる

豊かな感性を育むまちづくり

しあわせ実感くまもと

健康を実感できる

「安全で健やかなまちづくり」

健康は人の幸せの基本。市民ひとりひとりが心身ともに充実感を感じられ、環境にやさしい、災害に強い都市を目指します。